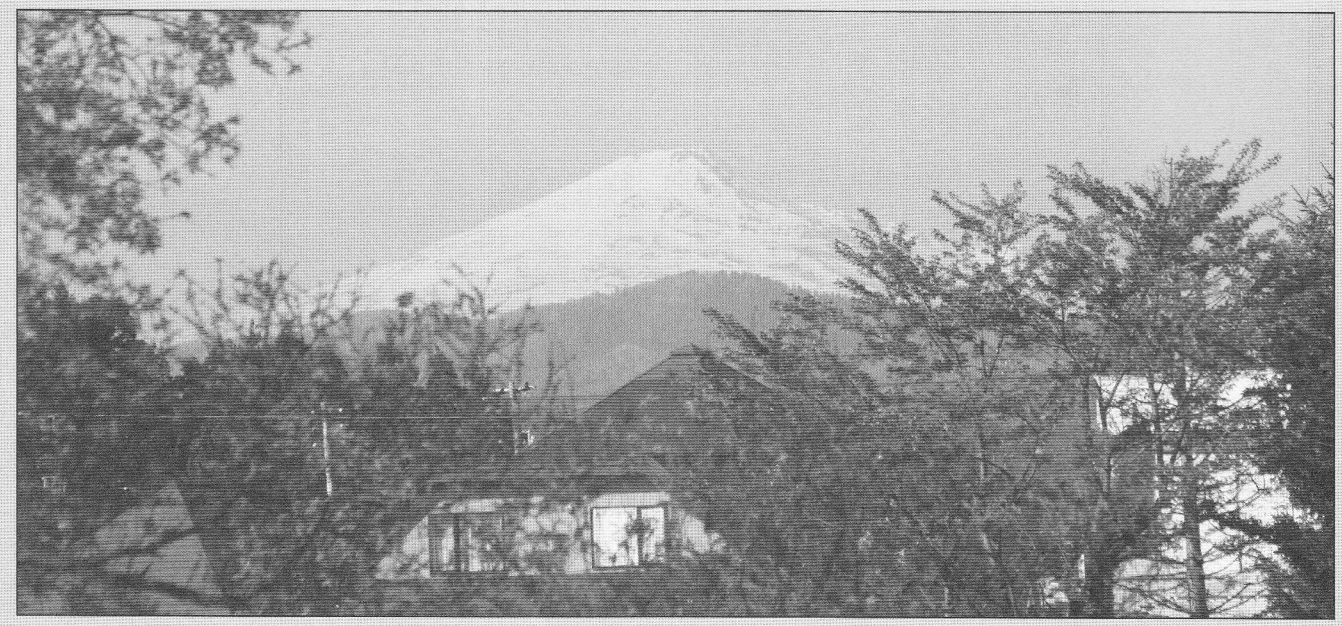
首都圏大曲会会報　第９号

ふるさと大曲

題字　澁谷一男

平成22年7月発行　発行所:〒102-0073 東京都千代田区九段北1-1-7-304 教育情報プロジェクト気付 首都圏大曲会事務局
電話 03(5213)2028　FAX 03(5213)2029　e-メール：info@e-prosjp.com　http://www.supportlife.info



雪に覆われた鳥海山の遠望

巡る季節の中で

首都圏大曲会会報　第９号

春雪の降った日の朝

水光る田植の頃

秋田県特別栽培農産物認証　申請中

内城菌！パワーで 私のこだわり米

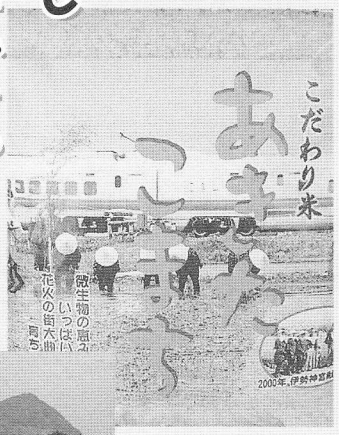
世紀の節目である西暦2000年（平成12年）、私は「伊勢神宮新嘗祭献穀田」を斉行する機会を与えていただきました。爾来、自然環境と食の安全に対する考え方が改まり、稲づくりにも少しずつ改良を加えて今日に至っております。

ここで出会ったものが「内城菌」でした。画期的なパワーを発揮するこの菌は、これまでは厄介者として扱われてきた食物、魚肉、野菜などから出る生ゴミを、有機肥料としてリサイクルするものです。これで土壌は生まれ変わり、植物は栄養分を吸収し易く、「内城菌農法」が可能となります。私のこだわりは、この肥料を使って生産する有機米です。

「内城菌」の使用によるリサイクル農法は、私たちに食の安全と喜びを与えてくれます。「私のこだわり米」に意欲的に取り組み、豊かなこの大地を後世に引き継いでまいります。　　佐藤　久男

ふるさと大曲で 生産された 味よし、食感よし 自慢のアキタコマチです。

ただ今ご注文承り中！



（内城菌の散布）

【ふるさとのアキタコマチ】Fax注文票

ご注文Fax番号⇒　0187－62－5614

種類とご注文数	5 kg袋	10 kg袋	30 kg袋
①減農薬・無化学肥料栽培米（内城菌有機肥料のみ散布土壌）	3,000 円（　　個）	5,000 円（　　個）	13,000 円（　　個）
②慣行栽培 あきたこまち（内城菌有機肥料＋化学肥料散布土壌）	2,300 円（　　個）	3,800 円（　　個）	9,800 円（　　個）
ご注文合計数	（　　個）	（　　個）	（　　個）

ご住所⇒　（郵便番号）

お名前⇒

（電話　　）

＊　いずれも送料は当方で負担します。数量に限りがありますので品切れの際はご容赦願います。

〒014-0103 秋田県大仙市高関上郷字高屋敷42　生産・販売者 佐藤　久男

電話0187(66)1702　Fax0187(62)5614

首都圏大曲会会報『ふるさと大曲』第九号　目次

〈夢のある田園交流都市へ〉
大仙市誕生五周年記念式典……7
大仙市民憲章……9
〈東京で大曲の花火を観る会〉
雄物川の川風を心で感じながら……10

■ひとときエッセー
学力トップクラスの背景にあるもの　三浦　憲一　4
桜守プロジェクト　小松　辰巳　5
夏休みの頃　大釜　茂璋　5
写真の子どもたちに見覚えはありませんか　佐々木　久　6

【会員インタビュー　こんにちは　首都圏の仲間たち】
切り絵で町おこしに励む　塩谷　良二さん　16
三冠馬・ミスターシービーを育てた　佐藤　忠雄さん　17

【ふるさとさん　こんにちは】
若手グループの果敢な挑戦
大曲商工会議所青年部……18

◇カメラ片手に
大曲の原風景・冬から春、そして夏へ　撮影　藤田　征一……14
◇カメラ紀行
春遅い裏磐梯を訪ねて　齋藤　貞助……22

大曲の花火一〇〇年　感謝・祝・未来をコンセプトに　賢木　新悦……12

ふるさと納税　一人ひとりの善意がふるさとの元気に結びつく――……13

首都圏大曲会　会員のひろば……21
俳句　朱華　作詞　黒皮　羽生　江戸さちこ
大曲の話題　3
◇編集後記　21

大曲の話題

なかまの情報

◇「ふるさとの祭　第５集」大曲の花火　デザイン化され発売中！

郵便事業株式会社では、全国各地で開催される、ふるさとを感じる祭や夏のイベントを題材にした「ふるさとの祭」シリーズ第5集として、秋田県大曲の花火を発売しました。これは全国一の花火競技大会として知られる「大曲の花火100年」を記念したもので、この7月1日から全国的に発売されたものです。

〈発売する切手帳の内容〉

名称　通常版切手帳（ふるさとの祭　第5集）
発行日　平成22年7月1日
価格　900円（切手シート500円含む）
商品概要　ふるさと切手「ふるさとの祭　第5集」1シートを納めた見開き切手シート。

◇2010出前民謡「ふるさと民謡めぐり」　（　）は開催会場

大仙市内8地域を巡る、出前民謡ふるさと民謡めぐり」を行います。この催しは、大仙市民謡愛好会が中心となり、各地域で活動している方々や若い歌い手などが一緒になって、民謡と伝統芸能の舞台を創り上げるものです。入場料無料。開催地・日時は次の通りです。（大曲地区は5月15日に終了しました）

神岡10月16日午後1時（神岡農村環境改善センター）**協和**10月17日午前10時（協和市民センター）**中仙**10月17日午後3時（中仙市民会館）**西仙北**10月30日午後1時（西仙北中央会館）**仙北**10月頃の老人クラブ大会に合わせて開催（仙北ふれあい文化センター）**南外**11月3日午後1時（南外コミュニティセンター）**太田**11月10日午前10時（太田文化プラザ）

◇千葉トシ子さん　7月29日、西船橋で夏の民謡まつり

7月24日の首都圏大曲会総会・懇親会にも出演する千葉トシ子さんは、その後の7月29日（木）JR西船橋南口の「フローラ西船」で開催される「夏の民謡まつりに、二代目藤丸東風社中とともに出演します。入場料は、お料理とも飲み放題で6,000円。6時～9時まで。

株式会社　嶋田ハム
代表取締役　嶋田耕治
〒014-0016 大仙市若竹町26－23
TEL（0187）63－1576
FAX（0187）63－1578

■首都圏大曲会　ひとときエッセー

故郷（ふるさと）つれづれ

ふるさとの思い出の中に今の自分がある。広々とした田園の向こうにどっしりと秋田駒が見える。流れる風に乗って稔りを前にした稲の匂いがする。霊峰鳥海山は美しい姿を今日も遥かな雲間に見せているだろうか。太平山の頂には電波塔が光っているだろう。一〇〇年の歴史を数える花火大会も近い。

学力トップクラスの背景にあるもの

三浦　憲一（大仙市教育長）

日頃から大仙市の教育活動にご理解・ご支援を賜り厚く感謝申し上げます。また三月二十一日の大仙市誕生五周年記念式典祝賀会では、本市の子どもたちに対し、過分なるお褒めのお言葉を頂戴し、重ねて御礼を申し上げます。

さてこの三年間、秋田県は全国学力調査でトップクラスにあり、それは本市でも同様であります。

昨年秋、最上位の本県の小学生と、下位県の小学生との間にどうしてこんなにも大きな差があるのかということについての、研究グループからの報告が新聞に掲載されていました。

要因は二つあり、一つは本県の幼保の就学前教育が、期間も長く、教育内容も優れていること、今一つは、幼児期からの家庭でのしつけの差とのことでした。

例を挙げれば、毎日朝食を食べる子ども、毎日同じ時刻に起きる子ども、夜十時までに就寝する子ども、困っている人を進んで助ける子ども、近所の人に挨拶をする子どもの割合が下位県よりも本県は、数％～二十％ほど多いのだそうです。

この家庭教育力の高さが小一ギャップを軽減し、子どもたちが心身ともにバランスよく成長していく下支えになっているものと考えます。

大仙市では平成二十年七月に大仙市ＰＴＡ連合会を立ち上げました。これによって、市内の保護者同士の横の連携がより緊密になり、家庭教育力が一層強固なものになったと確信しています。

また二十年度から二校、二十一年度からは六校が学校支援地域本部を立ち上げ、地域の方々に教育活動に参画いただくことにより、保護者・地域・学校が一体となって子どもを育てる教育システムが、市の各地域に広がってきています。

さらには二十一年二月、大仙市と国際教養大学間の国際交流に関する連携プログラム協定を締結したことで、多くの留学生を学校行事に招き、互いに異文化交流を深めています。子どもたちはグローバルなものの見方や考え方に触れることで、学習意欲を一層高める機会となっております。

このほか、高校生に小学生の外国語活動の指導者として参画してもらったり、中学生が農業やものづくりについて高校に行って学んだりと、小中連携の域を超えた異校種間連携によって、確かな学力と豊かな心が育まれてきていることを実感しています。

昭和28年当時の丸子橋　（撮影　大野源二郎氏）

大曲駅を出ると、通りは丸子橋方面に向かって一直線に伸びていた。月岡劇場の賑やかな客を呼ぶスピーカーを背に受けて歩を進めると、左に高柳百貨店。ほどなく丸子橋にさしかかる。「親柱は大理石で情緒ある橋だった」と、この写真を撮影した大野源二郎さんは書いている。橋上からの太平山はまさに大曲のシンボルだった。橋のたもとのヤナギ、今は姿を消している。

心と心のふれあいのスペース
大曲エンパイヤホテル
県南一のスペースを誇る大宴会場。ご婚礼・各種ご宴会・
お食事・お宿泊などを揃えた　シティ型ホテル
〒014－0015大仙市大曲白金町8－17
TEL 0187－63－1131㈹　Fax 0187－63－1541
URL:http://www7.ocn.ne.jp/~empire/

大曲商工会議所
会頭　高橋　寛
〒014-0027　大仙市大曲通町８番50号
TEL　0187－62－1262　FAX 0187－62－1265
URL　http://www.obako.or.jp/kaigaisho/

これからの時代、少子化問題が深刻化する中、一人の子どもに一人の先生が教え、学校で子どもを育てるという従来の体制から、一人の子どもに複数の先生が関わり、保護者や地域住民と一緒になって子どもを育てる体制へと変革する必要があります。

実際に、一学級を二人の教師で指導するティームティーチングや、小学校でも特定の教科を専門の教師が指導する専科教員制や教科担任制が、本市にも浸透してきました。

各学校がこのような有益な情報を積極的に発信し、徐々にですが地域に開かれてきつつあります。今後とも首都圏大曲会から大仙市の子どもたちに対して、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

（平成22年5月10日記）

桜守（さくらもり）プロジェクト

小松辰巳
（大仙市企画部長）

春の遅い北東北ですが、寒気団に覆われた今年は、例年よりも格別に開花が遅れた大仙市の桜でした。そのような中で、待ちかねた桜の季節をようやく迎えたと思ったら五月の連休。あっという間に過ぎ去って、燃えるような新緑の季節を迎えております。

首都圏大曲会の皆様にはお変わりありませんか。

今年の春は、寒暖の差が激しく、ようやく暖かい日差しを感じたと思っても、その翌日には冷たい雨が降る、そんな日々を繰り返していました。そのため農作業も遅れ気味。それでも、遠く望む、まだ雪を被った鳥海山を背景に、トラクターの軽快な音とともに代掻き作業は進み、もう数日後には田んぼ一面に早苗が植えられ、緑一色の風景となります。

現状、普天間問題や高速道路の無料化など政策は揺れ動いています。その一方で地方の経済は未だ厳しい環境が続いていますが、故郷の風景はいつもと変わらない春の訪れを告げております。

さて、合併後、大仙市では住民との協働をキーワードとして市政運営を行っておりますが、昨年度から「桜守プロジェクト」として、大仙市内の桜を市民と一緒に後世に残す活動を実施しております。

そもそも活動の発端は、大曲から国道一〇五号を北上した中仙地域の桜の名所であります八乙女山の桜が、テングス病、鷺（うそ）の食害などにより十分に花を咲かせなくなったことにありました。これに危機感を感じた地域住民が立ち上がって「八乙女山を守る会」を創り、自分たちの手で桜を守ろうと活動を始めたことから、市としても、大仙市全市内の桜を守る活動を事業化したものです。

昨年度、自治会や町内会、造園業者の協力をいただきながら全市内の桜を調査し、緊急に手当が必要な桜については、地域の皆さんの協力を得ながら、病気の枝の除去作業などを実施しました。

大仙市のホームページに「大仙市さくらマップ」を公開しておりますが、これはこの事業の一環として実施しているもので、今後も内容を一層充実してまいりたいと考えております。

大仙市役所本庁舎（旧大曲市役所）の周りの桜など、皆さんもよくご存じの場所もあろうかと思いますので一度ホームページを開けてご覧ください。これら一つひとつは、決して大きな事業ではありませんが、市民と一緒に、美しいふるさと大仙市を守っていきたい、そんな気持ちで取り組んでおりますので、首都圏大曲会の皆さまからはこれからも大仙市への応援をよろしくお願いいたします。

（平成22年5月14日記）

夏休みの頃

雀追い小屋の思い出

大釜茂璋
（首都圏大曲会会長）

六月、水の張られた田んぼの上を瑞々しい風が吹き渡って、気だるい午後の道を歩いていると、ギョギョシ、ギョギョシとやかましくヨシキリが鳴いていた。夏休みになったら近くの葭原（よしはら）へ行行子（ぎょうぎょうし）の巣を探しに行こうと友だちと話し合いながら、学校帰りに通った道。車社会の今は誰も通らない。

遠くの森でカッコウが鳴いている。梅雨空の下で、カッコウの鳴き声は何故かもの悲しい。〝憂き我をさびしがらせよ閑古鳥（かんこどり）〟と詠んだのは松尾芭蕉だった。

東山に残る雪形が、種まき爺さんの姿に見えてくると本格的

旬の秋田が高輪に。
Dining＆Shopping
あきた美彩館
Akita Bisaikan
ダイニング はな小町
京急本線品川駅　JR品川駅　高輪口　徒歩3分
東京都港区高輪4丁目10-8 京急第7ビル
ウィング高輪WEST-Ⅲ 1階
TEL 03-5447-1010　http://www.akita-bisaikan.jp/

な農繁期が訪れる。

◇

夏休みは春に撒いた馬鈴薯収穫の時期でもある。サラリーマン家庭のわが家は本物の農家とは違ったが、それでも裏庭は畠で、父は馬鈴薯を10畝近くも植えていた。秋田市は町場育ちの母は畠作業が苦手で、種撒きどきの堆肥を素手では出来ず、割り箸を使っていたとかで笑われていたが、そんな母も交えて子どもたちの馬鈴薯収穫は大賑やか。素人の畠とはいえ結構立派な芋が出来、大きなバケツを引きずりながら、掘り出された芋を拾い集める妹や弟たちも一人前の働き手だ。芋と一緒に出てくる大きなミミズに逃げ腰になりながら、両親とともに過ごす時間の楽しさと安堵感。年に二回収穫できるジャガイモは、二度芋とも呼ばれていた。

◇

ジャガイモが収穫された後の畠には大根が撒かれる。

地中に深く伸びる大根畠は、畝を高く盛り上げなければならない。盛り上げた土は手頃な板で叩いて固め、畝の崩れを防ぐ。そのてっぺんに肥やし用の穴を空け、隣に大根の種を二～三粒ずつ蒔いていく。

三～四日で芽が出てくるが、これが雀などに狙われる。そこで子どもたちは畠の傍に雀追いの小屋を造る。葦の葉や杉の葉などで屋根を葺いた仮の掘っ建て小屋は、夏休み中の子どもたちの冒険基地。当然夏休み中の一時はここで過ごし、近所の悪ガキどもも集まってこれが何とも楽しかった。

親の許可も得ずにそこから川へ泳ぎに行ったり、友人の家の瓜畠から、熟れた瓜を失敬してきてはみんなで食べたり。溜まっていた『夏休みの友』なども、何が「友」だ！などと小言を言いながら一気に仕上げたり。そこはまさに夏休みの時期、子どもたちの大本営的かつ前線基地でもあった。

懐かしい少年時代の、あの夏の日の一コマ一コマ。はしゃぎ回る甲高い子どもたちの声が、今も耳に残る。あれは何年前の夏のことになるのだろうか。

写真の子どもたちに見覚えはありませんか

昭和22年夏　大盛橋のたもとで撮影

☆☆☆☆　内小友字大島出身　☆☆☆☆

佐々木久さんが探しています

「昭和二十二年七月初旬のこと、大曲の大盛橋のたもとで写したものです」――今年二月、「東京で大曲の花火を観る会」に参加した佐々木久さん（内小友字大島出身）が、話してくださいました。

当時佐々木さんは22歳の青年。職探しのため大曲職安に通っていました。

その日の帰り、大盛橋の付近で町の風景を撮っていると、学校帰りの児童たちに出逢い、写真を撮ってやりました。（上の写真）

この日佐々木さんは千葉の川崎製鉄所、現在のＪＦＥスチールに就職がきまった最良の日。程なく千葉市に来てしまい、あの子ども達に逢うこともありませんでした。しかし写真のことはずっと気になっていたのです。数年前首都圏大曲会に入会しましたが、『ふるさと大曲』で消息をつかめないかと思い立ちました。あの一人ひとりにこの写真を送ってあげたいのです。お心当たりの方は、大曲会事務局（℡03-5213-2028）までご連絡をお願いいたします。

「市民と協働による地域づくりを推進して来た」と挨拶をする栗林次美市長

大仙市誕生５周年記念式典　　３月22日

夢のある田園交流都市へ

大曲市民会館大ホール　850名が参加

「おおきなせなかに―夢を乗せ未来に羽ばたく元気なまち」

大仙市が誕生して今年５年目を迎えました。大仙市では誕生５周年を祝い、今年３月22日、大曲市民会館・大ホールで、市民の代表約850人がつどい盛大な記念式典を挙行しました。

祝賀パーティーで高らかに祝杯をあげる参加者たち（於　大曲エンパイアホテル）

旧大曲市と周辺７町村が合併して大仙市が誕生したのは、今から五年前の平成十七年三月二十二日でした。

まさに「地方の時代」が標榜され、その動きが「平成の大合併」などというかけ声とともに奔流の如く走り出した時代でした。財政の基盤強化や地域生活の実態に即した行政の運営を図るために、この流れは全国に波及し、この国を大きなうねりの中に巻き込んで行ったのです。

早くもあれから五年が経ちました。私たちの大曲市も大仙市という新しい名のもとに、地域八市町村の結集のもと、数々の課題や問題点を乗り越え、行政、市民一体となって努力を重ね今日に至っております。

◇◆◇

栗林市長「地域の声が行政に届く仕組みに」

栗林市長は「大仙市誕生五周年記念式典プログラム」のあいさつの中で、『この五年間、市民との協働による地域づくりを標ぼうし、地域自治区ごとに設置した地域協議会などを通じて地域の声が行政に届く仕組みの確立に務めるとともに、地域枠予算の創設などにより市民一体となったまちづくりに取り組んできた。

そしてまた、平成十八年三月には市政運営の基本となる総合計画を策定し、将来都市像に掲げた「人が活き人が集う夢のある田園都市」の実現に向けた諸施策や事業を進めてきている』と、この間の市民をはじめ各関係者の理解と協力に感謝の意を述べていました。

式典は、誕生した月日を同じくする今年の三月二十二日、大曲市民会館大ホールで開催されました。この日式典に参加した市民の代表は約八百五十人、大ホールの一階から三階まで、びっしりと埋め尽くしました。

大仙市誕生5周年式典は、市民の代表約八百五十名が出席して、厳粛に挙行された

100年都市を目指して
大きく一歩 前進！

◇◆◇ 祝祭日弦楽五重奏で厳粛にオープニング

式典オープニングは、「祝祭日弦楽五重奏団」による歓迎演奏の厳粛な雰囲気の中、幕を切って落としました。司会は若い町らしく、大曲高校放送部の女子生徒が明るく務めました。

栗林次美市長、児玉裕一大仙市議会議長ならびに来賓の祝辞がありました。栗林市長はこの日の祝辞で、「市民一人ひとりが誇りをもてる地域の創造に向けた施策を計画的に進めながら大仙市の基盤をつくり上げ、市民が安心して暮らせる郷土を未来に残していきたい」と、今後の展望に言及しました。

粛々と会は進められ、引き続き合併の推進にご苦労をされ、それぞれの分野の基礎固めに功績のあった大曲市市長高橋司氏、前大曲商工会議所会頭高柳恭侑氏など二十二名の方々を表彰するとともに、市政の推進に協力し、他の模範となる貢献をした七個人・二事業所に感謝状が贈られました。また広く市民に親しまれ、市の名声を高めたとして大仙市刈和野在住の俳優柳葉敏郎氏、大仙市太田出身の日本民謡協会理事佐々木貞勝氏の二人に大仙市民賞が授与されました。

◇◆◇ 力強く崇高に 大仙市民憲章を披露

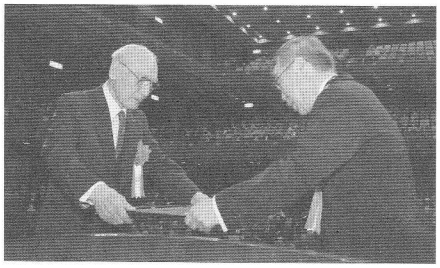
この日大仙市は、市の一体性と市民の一体感推進を目的に制定を進めていた「大仙市民憲章」を披露しました。市民一人ひとりが誇りと責任を自覚し、その歴史を尊び、伝統に学

（9頁）

大仙市功績者を表彰

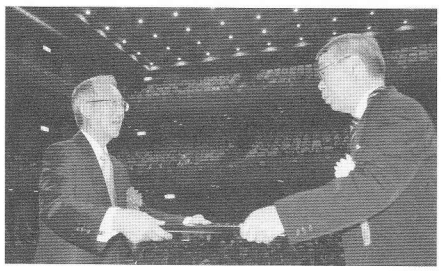
地方自治功労

元大曲市長
高橋（たかはし） 司（つかさ） さん



商工業功労

前大曲商工会議所会頭
高柳（たかやなぎ） 恭侑（きょうゆう） さん



学力日本一の若い力を町づくりに！

祝杯発声の音頭は首都圏大曲会が務めた
乾杯に先立ち祝辞を述べる大釜茂璋会長

ぶとともに文化の花咲くまちをみんなでつくって行こうと、崇高に謳いあげたものです。

続いて映像を使って過去五年間の歩みを振り返り、そして大仙市混成合唱団によるお祝いの歌が披露されました。

最後は、出席者全員による〝緑あふれるこの大地〜〟と大仙市民の歌「夢、この大地」を合唱し、めでたく記念式典のフィナーレを飾りました。

なお式典には大仙市各ふるさと会から、ふるさと南外の会相馬敬二会長、東京嶽友会神宮滋会長、首都圏にしせんぼく会黒川晴生会長、仙北町ふるさと会小松一彦幹事が出席しました。

大仙市民憲章

わたくしたちのまち大仙市は、豊かな自然と広大な田園に囲まれ、先人のたゆまぬ努力によって栄えてきた歴史あるまちです。

わたくしたちは、この貴重な遺産や自然の恵みに感謝し、市民一人ひとりが誇りと責任を持って、いきいきと暮らせる100年都市をめざして、ここに市民憲章を定めます。

一　自分を高め　心を寄せ合い
　　ぬくもりのあるまちをつくります

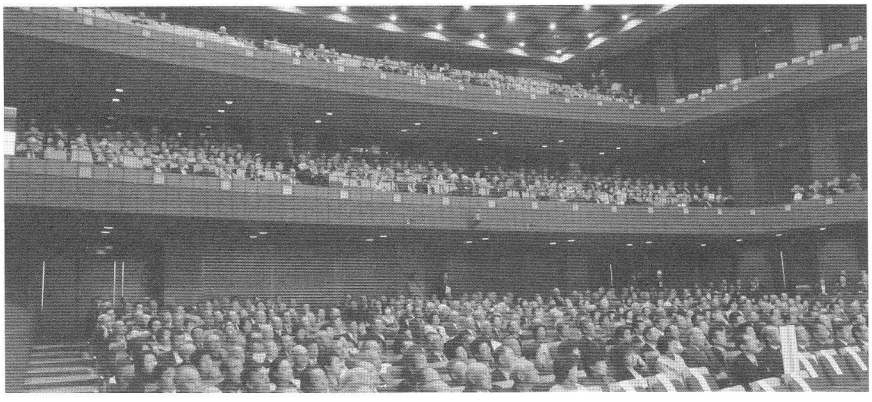
一　ふるさとを愛し　緑の山河を守り
　　美しいまちをつくります

一　きまりを大切に　力を合わせ
　　みんなで働くまちをつくります

一　健康に努め　家族を思いやり
　　笑顔の輝くまちをつくります

一　歴史を見つめ　伝統に学び
　　文化の花咲くまちをつくります

平成22年3月22日制定



大曲市民会館大ホールを埋めた出席者。1階から3階までを埋め尽くして誕生5周年を祝った

◇◆◇

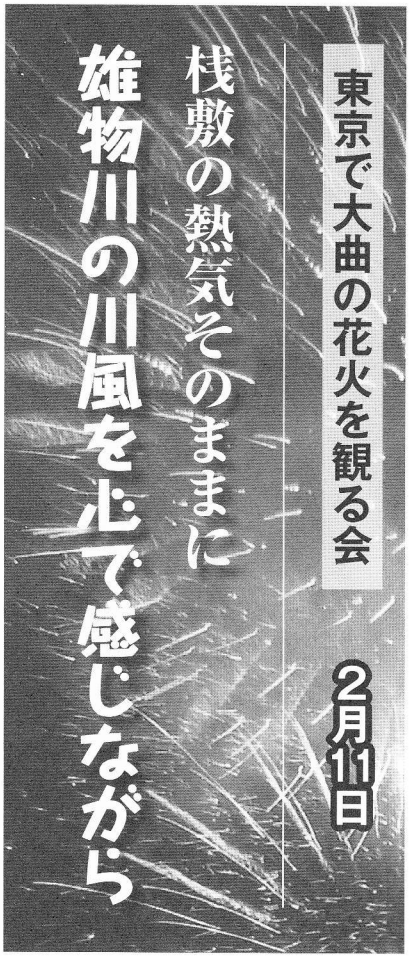
賑やかに、盛大に
受賞者を囲む祝賀会

夕方五時十五分から大曲エンパイアホテルを会場に、「大仙市誕生五周年記念　受賞者を囲む祝賀会」が、参加者三百名のもとに開催されました。

祝賀会には各受賞者をはじめ、栗林市長など大仙市関係者、堀井啓一秋田県副知事、県南地区選出の衆参両議院議員、県会議員などが出席して盛大に繰り広げられました。

祝賀会開催の乾杯発声には首都圏大曲会が指名され、大釜会長が乾杯の音頭を取りました。なお乾杯に先立ち大釜会長は、首都圏大曲会に対する市民並びに市役所からの日頃のご支援を感謝し、加えて平成十八年度から連続で学力日本一の栄誉ある地位を確保する秋田県、特に大仙地区の学力の高さを称えました。これは各学校とともに地域社会が一体となって努力した成果であり、それら若い力が大仙市の将来の発展につながるものとなります。

祝賀会では民謡や踊りの披露などがあり、それぞれ出席者の懇親とともにお祝いムード一色の中で、午後七時過ぎお開きとなりました。



主　催
首都圏大曲会

「大曲の花火を東京で観る会」は今年二月十一日、建国記念の日、東京・市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷（私学会館）で、午後一時から開催されました。首都圏大曲会として初めての企画ですから、会員からの声はかかっていても、どれだけの人が参加してくれるか一抹の不安はありました。

企画の進行の当たっては数回にわたり三役会を開催し、大仙市役所や大曲商工会議所、NPO法人大曲花火倶楽部にも協力を求め、少しでも雰囲気を本番の花火大会に近づけようと試みました。

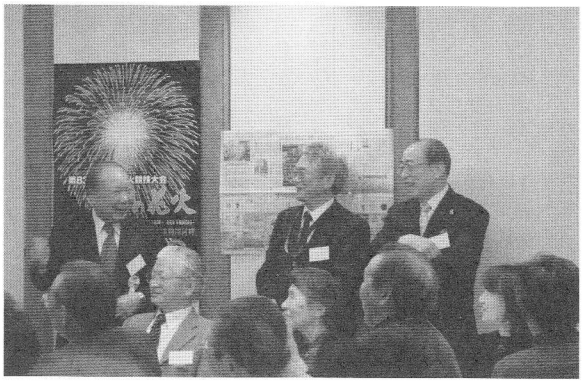
夏の夜空を極彩色に染めながら優雅に演出する花火。私たちのふるさと大曲は、日本一の花火大会を開催する町として、今や全国どこへ行っても知らない人はいません。それだけに夏には花火見物で帰省する人も多く、今では大曲の市街地はもちろん、大仙市民こぞってのお祭りとして沸き立つのです。

ところが仕事の関係などでわざわざ故郷に帰って花火見物のできない人もいて、首都圏大曲会にはDVDでもいいから東京で大曲の花火を観る会を開けないだろうかと、会員の声が寄せられていました。また大曲の花火は有名だが、なかなか大曲までは行けないので残念に思っていると、会員外の人からの声もありました。毎年の首都圏大曲会総会開催のトップを飾って映し出される「大曲の花火」が、ふるさとを偲ぶきっかけともなっているのかもしれません。そういう熱い思いが盛り上がり、「大曲の花火を東京で観る会」は開催されました。

「東京で大曲の花火を観る会」開会挨拶をする大釜会長（右は総合司会担当の大友副会長）

「大曲の花火」の映像を見ながら思い出話しも盛り上がる

大仙市企画部にはDVDを大曲図書館からの借り出しをお願いし、商工会議所からは大会の公式プログラムを在庫分ご提供頂きました。大曲花火倶楽部は特製の「大仙花火カレンダー」を参加人数分を提供してくださり、ここに至って開催の気運大いに盛り上がるイベントとなったものです。


花火の日の思い出は誰もが楽しさイッパイ

「大曲の納豆汁」を歌う夢次郎さんも特別参加

そしてまた嬉しいことには、昨年天童市で開催された「平成鍋合戦」で、大曲商工会議所青年部が見事優勝し、グランプリを獲得した「大曲の納豆汁」に

因んで発表された「納豆汁音頭」を歌う、夢次郎こと佐々木正一さんが、わざわざ大曲から囃し手の高橋博子さんと一緒に参加してくれたことです。

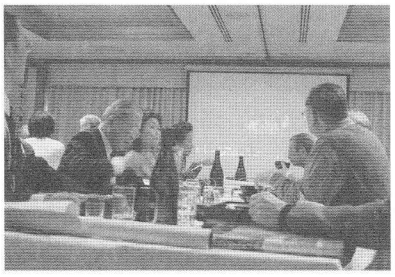
結局今回花火を観る会には、こよなく大曲の花火を愛する人々や、たとえ大曲出身ではなくても、一度大曲に行ってみたいと思っていた人など四十数名が参加し予期以上の盛会でした。

開催日の二月十一日は建国記念の日。会場のある市ヶ谷は靖国神社に近く、朝から参拝客や街宣車などで随分賑やかな一日でした。首都圏大曲会のイベントとして初めての企画だっただけに、担当の幹事たちも九時には集合して準備にとりかかる張り切りよう。プロジェクターの調子を整えたり、大曲花火倶楽部からの「大曲の花火一〇〇年」のポスターを貼ったり。わが郷土自慢の花火大会を東京で観ようという粋な試みは、早くもブレークした感じでした。

大曲の納豆汁で知られる「納豆音頭」を歌う夢次郎こと佐々木正一さんと囃し手・高橋博子さんの熱唱

大仙市役所から参加してくださった企画部長小松辰巳さんを囲み、大曲の近況を聞く人も

ビールを注いでもらって



花火を肴に話しがはずむ

幼なじみと思い出を語る

弁当広げ、酒酌み交わし 感覚は桟敷見物気分

12時20分から受付開始。花火見物に集まってきた人たちは開始を告げる午後一時まで、特製の花火弁当に日本酒やビールを前に待つことになります。はやばやと出来上がっている人もちらほら出て、花火見物気分は徐々に盛り上っていきました。

午後一時、「今や世界に名立たる大曲の花火。私たち首都圏大曲会は、その花火をDVDではありますが、東京で観る会を企画し、こんなに大勢の観客に集まって頂いたところで、大曲の意気を大いに示したい」と大釜茂璋会長の歓迎の挨拶。続いて大仙市小松辰巳企画部長から大仙市の近況やこの会の開催への祝意があり、威勢よく花火の打上げは開始されました。

勢いよく上がる花火には惜しげもなく拍手が沸き、椅子の下から響いてくるすさまじいばかりの音に懐かしさを感じたり、大曲で過ごした頃の夏の風情を心行くまで味わっていました。

昨年夏の大会提供花火は「武士道」でしたが、派手さを抑えた深みのある配色の花火は豪華で、さすがに伝統を誇る大曲の花火の品格すらも感じて、この日もやんやの拍手と賞賛を呼んでいました。

花火鑑賞後は カラオケ大会で炎上

約一時間にまとめられた花火鑑賞の後は、大仙市から参加してくれた夢次郎こと佐々木正一さんの歌と、高橋博子さんの囃しによる「納豆汁音頭」「ナートセ・ロック音頭」の披露がありました。軽快なリズムに乗って夢次郎さんが歌うと、観客の身体もリズムに合わせて揺れています。なじみの納豆が大曲出身者に元気を与え、まさに食欲をそそる「納豆汁音頭」でした。

そしてその後は、賑やかにカラオケ大会に移りました。秋田人はいい声をしているとはよく言われることですが、それは大曲出身者にもそのまま当てはまるようです。当初は何人が歌ってくれるだろうかと幹事も心配でしたが、そんな心配はさらさらなく、歌う希望者は後から後から続いて、それがみんな上手ときたものですから、会場の従業員もしんみり聞きほれるほど。歌謡曲あり民謡あり、バラエティーに富んだ歌にダンスまで飛び出す陽気さでした。

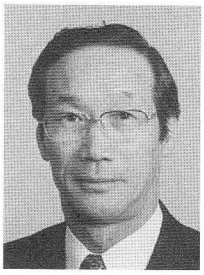
次回の「花火を観る会」は より工夫を加えて盛大に

今年大曲の花火は一〇〇年を迎え意気大いに上がりますが、来年二月の「東京で大曲の花火を観る会」の開催に当たっては、もっと広い会場で、もっと時間たっぷり時間をかけて欲しいという声も寄せられました。

次回の開催は来年二月を予定していますが、今年の内容をよく吟味し、より楽しく、より大曲を偲ぶ楽しい会を企画しようと幹事会では話し合っています。

「大曲の花火　一〇〇年」

感謝・祝・未来をコンセプトに



賢木新悦
（NPO大曲花火倶楽部会長）

「大曲の花火一〇〇年」の大会が迫ってきました。コンセプトは「感謝」「祝」「未来」です。日本一の花火に育てた先人に感謝し、市民、全国の大曲花火ファンと共に祝い、未来の大曲の花火に向かってスタートします。

すでに一月一日、大曲駅舎に「大曲の花火　一〇〇年」の歓迎幕を設置しました。また商店街をはじめ市内の各所に一〇〇年の昇り旗が立ち、花火大会が近づいたことをお知らせしています。

一方、花火フェスタ実行委員会は一年を通して一〇〇年を盛り上げようと毎月花火を打ち上げる「花火博覧会２０１０」を企画。三月は新作花火コレクション、四月は余目さくら花火観賞会、五月は日本花火鑑賞士会、六月は楢岡さなぶり酒花火、七月は七夕花火があります。九月以降も毎月花火を打ち上げ十二月まで続きます。

☆☆☆

八月二十一日に
花火フォーラムを開催

本大会一週間前の八月二十一日には「花火フォーラム」を市民会館で開催します。ここでは感謝状の贈呈、花火パフォーマンス、祝賀会と花火の打ち上げ等が予定されています。

さて、八月二十八日の本大会ですが、競技花火師は27人です。5号5発の昼花火は競技大会では大曲だけで、煙竜、煙柳は手間がかかるものです。五時から始まる競技会は日差しが強く見えにくいこともありますが、どうぞ団扇等でお日様を隠してご覧ください。

☆☆☆

10号玉2発で
夜花火の競技ご開始

夕方七時からの夜花火の競技は10号玉2発。本誌前号で花火鑑賞、其の一で日本の伝統花火・割物をご紹介しましたが、課題玉は三重芯（4つの輪）以上の高度な割物と自由玉（千輪、冠菊等）です。審査は玉名、座り、肩、盆、消え口等を見ます。

一方、創造花火は日本の花火の技術向上に影響を与えてきた大曲の花火の代名詞です。創造花火は昭和三十九年に大曲の花火の中興の祖佐藤勲氏が新しく競技大会に導入したものです。

玉名（タイトル）を音楽等取り入れ花火で表現します。筒の数は百五十本以内、サイズは5号以下で打ち上げ幅は二十メートル。2分30秒以内、時間がオーバーすれば減点です。玉名（タイトル）の付け方、選曲、シンクロでいかに観客を魅了できるのかがポイントです。

☆☆☆

地元企業の協賛や
呼び物の大会提供花火

さて競技大会とは別に、地元の企業が協賛する花火が競技の合間に打ち上がります。この協賛花火は九社で、ナイヤガラからスタートして最後10号30連発で締めくくります。

そして実行委員会が観客のみなさまに贈る「大会提供」は、この大会の目玉です。幅五〇〇メートルを使い約七分間打ち上げます。タイトルは七月の記者会見で発表されますが、内容は当日までオフレコです。今年はその他に一〇〇年記念特別番組が予定されております。

昼の部・夜の部ともに、観客のみなさんに一〇〇年の感謝をこめて打ち上げます。数々の企画も最終段階に入りましたが、間もなく完成します。首都圏大曲会のみなさんとは当日会場で、ともに感動を共有したいと思います。

8月28日　雄物川河畔

グランドパレス川端グループ
http://www.yamanote-hotel.com/
グランドパレス川端
山の手ホテル
フォーシーズン
ブライダルハウス
クリスタルサーカス『フォレスト』
葬儀専用施設『顕彰庵』
葬祭『アデュー』
感動を創造、発信する企業
GROUP-SYMBOL
微笑み・やすらぎ・感動

ふるさと納税

大仙市ふるさと応援基金

寄附金額　県内第一位を達成

ふるさと応援基金として「ふるさと納税制度」がスタートして今年は三年目を迎えました。大仙市出身者のふるさとへの思いは熱く、平成21年度の寄附金額は六四八万三千円に達し、秋田県内で堂々第一位を記録しました。

「ふるさと納税」は、私たちが国民の義務として納めている「税金」とはまったく趣旨が違います。

それは、私たちのふるさと大仙市を応援することを目的にした、一種の寄附金に相等する制度です。

即ち現在大仙市に住んでいなくても、額の大小にかかわらず、自分たちの善意が結集されてふるさとの発展に寄与したいと考える方々には最適の制度です。

昨年度、この制度による秋田県内各自治体が受けた寄附金の状況は、右の一覧表で見られるように、金額の六四八万三千円は県内第一位、件数45人は第四位にランクされるものです。

大仙市ではこれら寄附金を計画的に推進するため、「大仙市ふるさと応援基金条例」を制定し、平成22年以降、この条例の趣旨に沿った事業に使用すべく、慎重に検討し、大切に活用したいと話しています。

観光　・「大曲の花火」に関する運営の充実　・歴史遺産の整備　観光物産の充実各項目高齢者福祉　・医療施設の充実高齢者の移動手段の確保・雪対策の充実

自然環境　・道路や河川などの清掃の充実・河川について学習する環境の整備・休耕田の活用など原風景の維持

子育て教育　・育児支援拠点の充実　・子育てにたいする経済負担の軽減　・心豊かな人材の育成に役立てる

寄附の方法

①郵便振替
②市指定金融機関へ振込み
③前記以外の金融機関からの振込み
④市役所窓口（総合政策課）へ直接

※詳細は、電話〇一八七―（六三）一一一一（代表）までご連絡ください。

「ふるさと納税制度について」のパンフレットより（大仙市出身男鹿和雄さんの作品）

一人ひとりの善意がふるさとの元気に結びつく

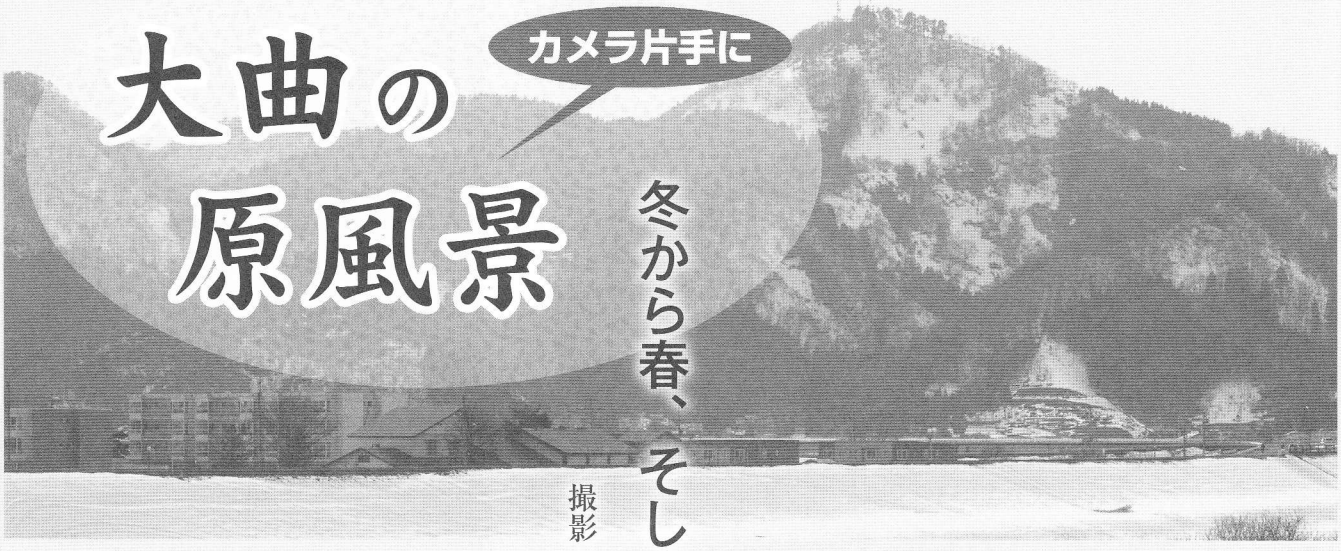
秋田県内の自治体の寄付の状況（21年度）

市町村名	寄付金額（円）	件数
大　仙　市	6,483,000（1位）	45（4位）
仙　北　市	4,312,000（2位）	23（10位）
由利本荘市	3,873,000（3位）	87（2位）
横　手　市	3,806,080（4位）	39（7位）
湯　沢　市	3,743,000（5位）	38（8位）

大曲の原風景

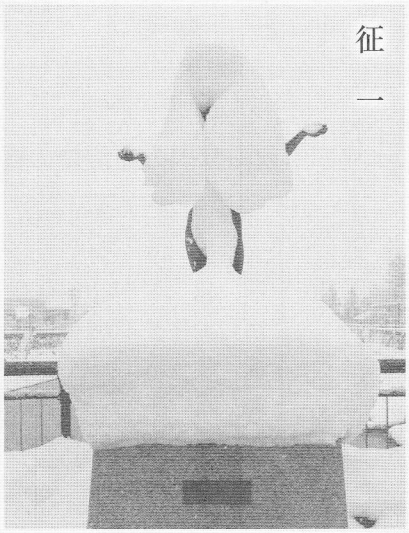
カメラ片手に

冬から春、そして夏へ



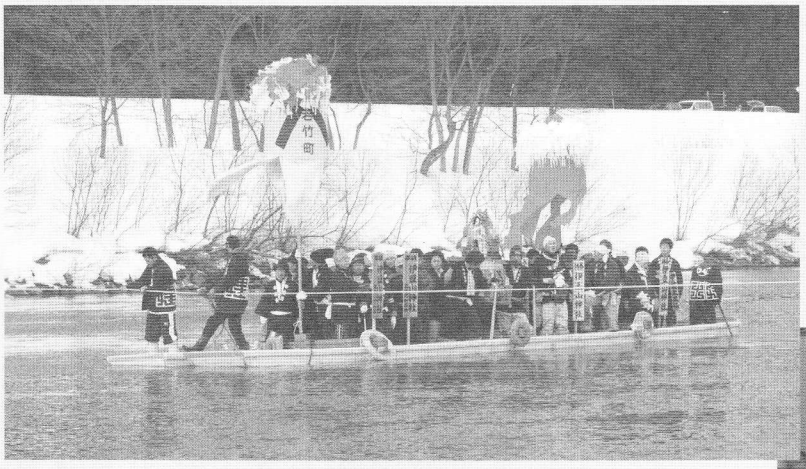
雄物川に初雪が降った日

撮影・藤田征一



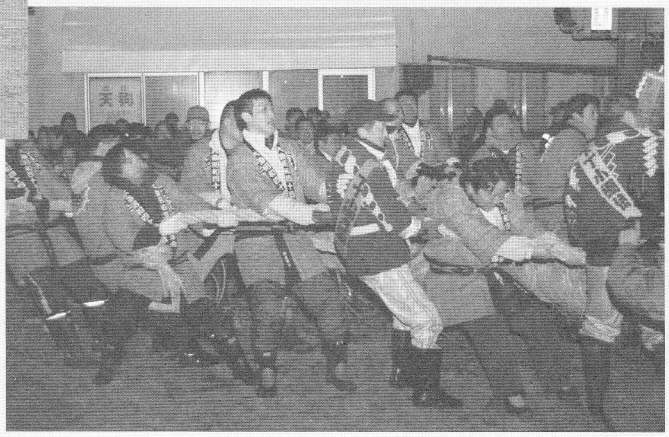
丸子橋にしんしんと降る雪に、襟巻きをしたような女人像がひっそり川の流れを見下ろしていた

古刹大川寺に新雪が降り積もる



色鮮やかな梵天の色が白雪に映え、雄物川の流れの上を渡っていく

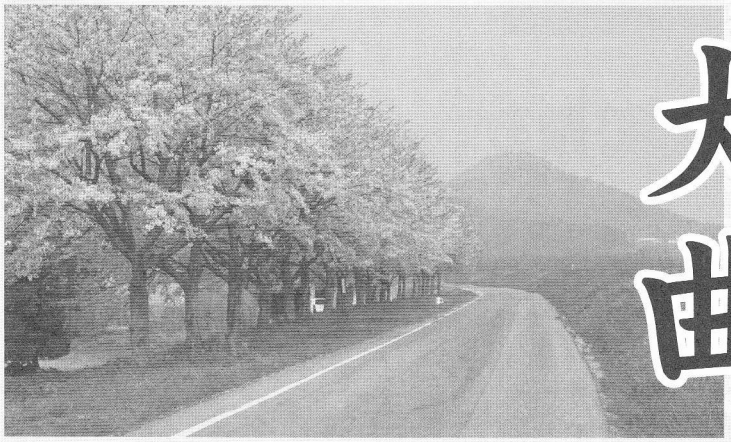
大曲の綱引きは諏訪神社の神事。上（かみ）が勝てば米が安くなり、下（しも）が勝てば高くなるとか



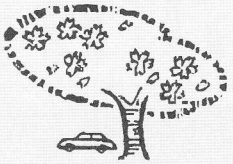
桜咲く大曲

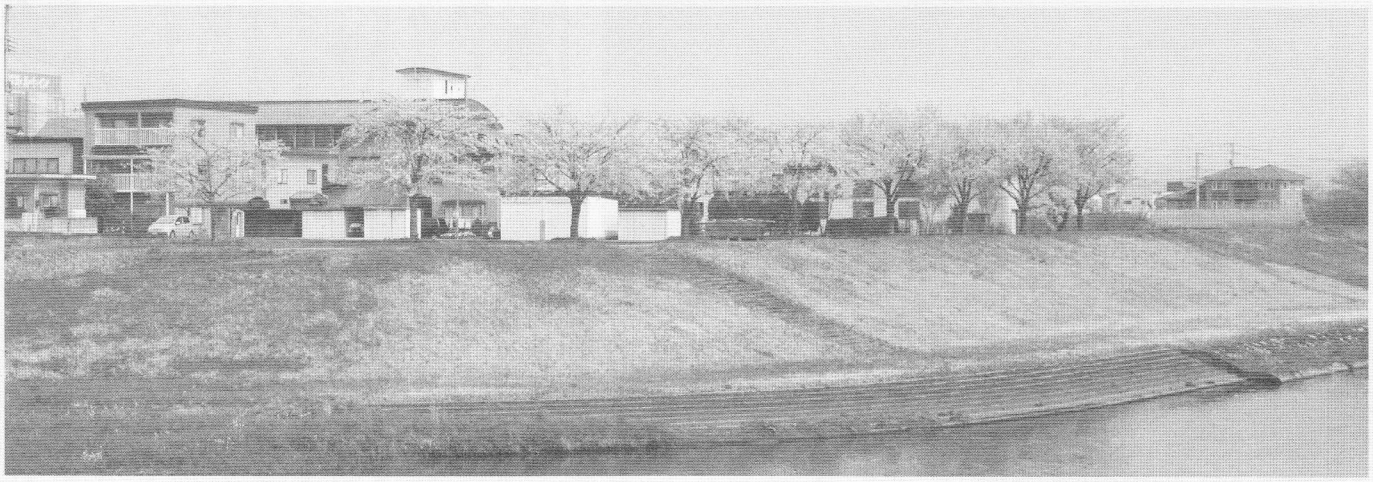
花園町鶉町地蔵尊の桜は満開

福住児童公園の枝垂れ桜



丸子川堤防の桜並木





丸子川堤防は爛漫の春

“魚と遊んで遊ばれて”

トトヤ魚屋のオヤジやってます

ふるさとのみなさんお元気ですか

本社

新木場工場　新砂工場

ビル事業部

〒136-0075 東京都江東区新砂１丁目８番５号　電話03-3640-6411(代) ＦＡＸ03-3644-5832

おかげさまで創業４５周年 45th 21世紀へ

東水工

東京水産工業株式会社

代表取締役社長 佐藤重光

会員インタビュー

こんにちは 首都圏の仲間たち

大曲を離れて幾星霜、首都圏大曲会の仲間たちは都会の波に揉まれながらも一生懸命頑張ってきました。今ふと我が来し方を振り返るとき、しみじみ自らの人生の重さ、充実感に浸る人も多いのではないでしょうか。今号では、切り絵で町おこしに励む塩谷良二さんと、三冠馬ミスターシービーを育てた佐藤忠雄さんを訪ねました。（インタビューは大釜会長）

切り絵で町おこしに励む

松戸市に住んで50年

塩谷良二さん

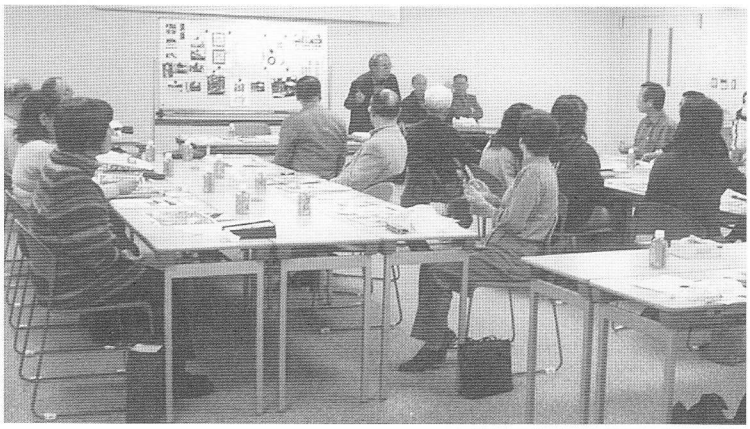
大釜　大曲はどちらでお生まれですか。

塩谷　昭和二年、米町で生まれました。現在は町名が上大町と変わっています。

大釜　その頃の思い出などを。

塩谷　家が貧しかったので、小さい頃から釣瓶桶で水汲みの手伝い。雪合戦などは背中に弟を負んぶして眺めていることが多かったように思います。しかし小学校3年生のとき担任の先生から誉めてもらうまでは、自分では身に覚えはありません（笑）が、言うことを聞かない相当の悪ガキだったようです。

その後成績も上がってきて、態度も良くなって5年生、6年生では福級長になりました。家庭訪問に見えた恩師が、ぜひ中学校に入れるよう説得してくれましたが、親は、家の倅がそんなに頭が良いわけがないと断っていたのを思い出します（笑）


松戸市で開いている切り絵教室

昭和八年生まれの「昭八会」今でも活動中

大釜　先生の経験をお持ちですね。教師経験の思い出などを。

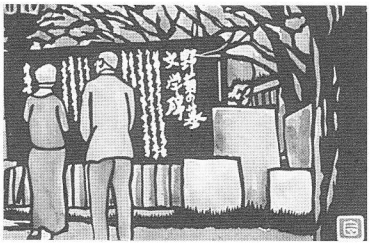
塩谷　戦争中の、当時豆教員とも呼ばれた準訓導制度があり、17歳には5年生に教えていました。このときの生徒は今も毎年同級会を開いて、「昭八会」といいますが、今年で26回を数えます。最近は代々木のキングスランドを会場に開催しています。

当時の教え子も77歳となり、恩師という存在も私一人になりました。

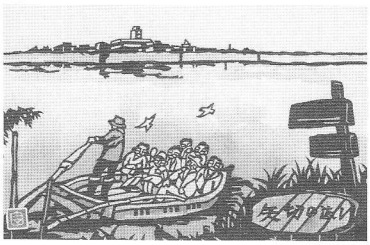
大釜　東京には何歳で…

塩谷　22歳でした。大勢の生徒たちに見送られて大曲駅を後にしました。新宿西口の伯父の家に厄介になりましたが、周りは空襲の焼け跡が広々と残っていました。その後は鎌倉に移り、34歳の時に現在の松戸に住み、以後50年間この地で暮らしています。

丸子橋からの月（大曲）



「野菊の墓」文学碑（松戸）



矢切の渡し（松戸）

松戸に住んで五十年 切り絵で町おこし

大釜　切り絵で町おこしを図っていますね。

塩谷　長い間松戸に住んでいますが、松戸を観光PRするものが少ないのです。「町おこし」は、意外とよそ者のほうが気づくものです。長い間切り絵を楽しんで来ましたが、特に師匠のいない私は、「矢切の渡し」や「松戸神社」などを廻っては、自分で観光はがきを作りました。

大釜　切り絵教室も開いているそうですが。

塩谷　ええ、五年ほど前は生徒が30人もいましたが、最近は減ってきて、それでも10人ぐらいの方が熱心に取り組んでいます。さして費用もかからない切り絵教室ですが、これまで述べ五百人以上が学びました。

塩谷先生（右から４人め）を囲んで昭八会

大釜　ふるさとの大曲に期待し提案することはありますか。

塩谷　若い町だけに、若い人のエネルギー溢れる「新しい町づくり」に期待します。韓国映画で有名になっている秋田は、今こそ新しいチャンスが到来しています。

大釜　首都圏大曲会総会に参加されたことはありますか。当会への期待などをお聞かせください。

塩谷　これまで何度か参加しています。高橋前市長、栗林市長、大曲会前世話人の棟方さんともお目にかかっています。大曲商工会議所前会頭の高柳さんにお会いしたとき、大曲の観光地元ビールを作ろうと、大曲会幹事の大川さんと一緒に話したことがありましたが、実現が難しいようで残念に思っています。

大釜　有難うございました。ますますご精励ください。

三冠馬

ミスターシービーを育てた

茨城県石岡市に住む

佐藤忠雄さん

大釜　四ツ屋出身ですね。東京へはいつ？

佐藤　20歳を過ぎてからです。

最初は江戸川区の鉄工所に住み込みで就職しました。12年間勤めました。その間結婚をして、娘も生まれました。生活？ラクじゃなかったですね。（笑）そんな時に知人から競馬の世界に誘われたのです。

大釜　それが厩務員生活のスタートということですか。

丁寧に教えて頂いた馬に接する心得

佐藤　はい。昭和四三年四月一日、今でもはっきり覚えています。松山吉三郎調教師にお世話になることになりました。

大釜　まさに人生の転機…。

佐藤　この世界に入る一ヶ月前、松山先生からお手紙を頂きましてね。始業から終業まで、一日の作業内容が細かく記されているんですよ。嬉しかったですね。

大釜　それまでとはまったく違う仕事だったということ…

佐藤　本当に戸惑うことばかりでした。朝が早いのにも驚きました（笑）サラブレッドは俊敏で繊細で、農耕馬とはまったく違いました。作業を時間内に終えることができなくて、厩舎の皆さんに随分迷惑をかけてしまいました。

大釜　三冠馬ミスターシービー、その母親のシービークイーンなど、名馬を担当していますね。

佐藤　はい、シービークインは、3頭めか4頭めに担当しました。牝馬らしく神経が細く、ちょっと荒いところもありました。食が細くて、ニンジンなども一度にはやれず、少しずつ回数を分けて与えたものです。時にはハチミツを飼葉に混ぜたりもしました。困ったのは爪でした。質がよくなくて・・。蹄鉄がすぐにゆるんで、装蹄師さんにはしょっちゅう相談し、工夫もしました。これは息子のミスターシービーも同じでしたね。

ミスターシービーはやはり名馬でした

大釜　その後厩舎は替わった？

佐藤　昭和56年に松山康久先生の厩舎に移りました。そこで出逢ったのが、後に三冠馬となるミスターシービーです。

大釜　三冠馬ですからね。すごいですね。どんな馬でしたか。

佐藤　母のシービークインと同じように目が大きくて、神経の鋭いところもそっくりでした。厩舎に入った頃から大人しくて、飼葉も心配なことはなく、好物のニンジンを喜んで食べる馬でした。

　レースのときは、必ず私がスタート地点までついて行きました。心臓は最高でしたね。共同通信杯4歳Sを勝ったとき、これは強い、ひょっとしたら…と思いました。

　それがあんなにも活躍してくれるとは。今でも言葉では言い表せない気持ちです。

思い出に残るレースはやはり菊花賞制覇

大釜　思い出に残るレースは？

佐藤　やはり菊花賞ですね。ダービーを勝った後、釘を踏んだり夏風邪を引いたり。すっかり調子を狂わせてしまいました。十月になって栗東で調教を積んだのでしたが、京都新聞社杯では4着。しかも大きく離されて。これはショックでした。ですから菊花賞の前には縁起をかついで勝田駅の入場券を買ったり（笑）神社へお参りもしました。私にとっては、それだけに思い出に残る勝利となりました。

大釜　佐藤さんは平成12年引退ですね。今はどんな日常ですか。

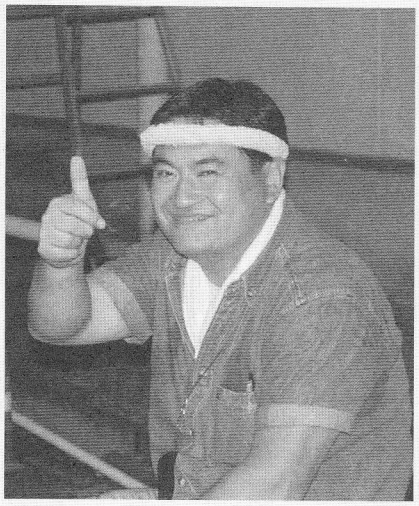
佐藤　32年間に亘る競走馬との生活でした。緊張の中にも楽しい想い出ばかりです。今は茨城県石岡市に住んでいますが、運動のために、歩くことに気を遣い、大きな風呂に入ってのんびり過ごすことが日課になっています。月に一度ぐらいは浅草に出て芝居を楽しんだり。全国各地の競馬場で過ごしてきただけに、たまには人の多いところへ行ってみたくなることもあります（笑）

ふるさとさん こんにちは！

温故知新の気概でがんばる

つじや菓子舗　五代目

辻　卓也さん



――つじやさんといえば大曲でも伝統のある菓子舗ですね。

辻　創業は江戸末期～明治の初め、私の曽々祖母に当たる辻ジュンの創業となっています。当初は店舗を構えるのではなく、祝儀、不祝儀の一切を取り仕切る出張料理人で、とうふかまぼこの作り手だったようです。店舗を構えたのは三代目に当たる祖父辻弥太郎が、大正三年、大曲の土屋舘でした。

――私どもの総会でもご提供頂いておりますが、「三杯もち」が特に有名ですね。

辻　スタートはとうふかまぼこです。一般には「豆腐巻物」と呼ばれ、この地域の伝統的な郷土菓子ですね。現在でも県南地区の豆腐屋さん、食品加工業者、最近はやりの農家企業などでも作られています。原料素材や配合、製造方法などはそれぞれ違い、従って味や風味も違います。当店の使うとうふかまぼこは、初代辻ジュンの製法・味を守っています。因みにとうふかまぼこは蒸したもの、とうふカステラは焼いたものです。

三杯もちは昔から「みそ」「はなみそ」と呼ばれて、この土地の郷土菓子・行事食でした。三代目辻弥太郎が郷土菓子の「みそ」「はなみそ」に和菓子の技術・製法を採り入れ、「三杯もち」として売り出しました。歴史の上ではとうふかまぼこよりも新しいものです。

――それでも歴史を感じますね。売れ筋は。

辻　「とうふかまぼこ」、「三杯もち」はこの店のツートップです。それ以外のお菓子も10種類ほどありますが、地元のお客様には「とうふかまぼこ」「三杯もち」のつじやで定着しています。（笑）安易に機械化に走ることなく、しっかりと伝統の味を守っていきたいと考えています。

――辻さんは、家業の他に現在大曲工会議所青年部副会長としてご活躍ですね。青年部の活動趣旨や役割については…

辻　青年部会長は、グランドパレス川端の代表取締役である斎藤浩英さんです。商工会議所青年部は、この地域の若手企業人育成を目的に組織されました。要は二代目ボンボン（笑）や企業家の自己研鑽の場であり、また他地域の活動する同じような青年部や部員との交流・学びの場であり、地域とともに自社のための活動をする後ろ盾になるものです。よき時代の伝統を守りつつも、若者の集団らしく新しいことへの挑戦も果敢に進めていきたいと思います。

若手グループの果敢な挑戦

大曲商工会議所青年部

Young Entrepreneurs Group

「地域社会の健全な発展を図る商工会議所の一翼を担い、次代への先導者としての責任を自覚し～」と、今、大曲商工会議所青年部は新しい時代へ向け果敢な活動を展開しています。秋田県『食』のネットワーク協議会や『土屋館衆』の立ち上げ、『土屋館わいわい広場』の開催、そして平成20年2月に天童市で開催された「平成鍋合戦」に「納豆汁」で挑戦、見事グランプリを獲得しました。

大曲の美味しさをアピール

――青年部の活動は目覚しいものがありますが、「指針」をご紹介ください

私たちの身の周りでは、あらゆる点において国際化の波が押し寄せています。その流れに合わせるように、私たち自らの教養を高めるとともに、地域を支える青年経済人として、その先導者たる気概で研鑽に努めなければなりません。青年部の行動指針は、豊かな郷土を築くために、創意と工夫、勇気と情熱を傾けるなど、この地域の今後を担う若手経済人のあるべき姿を追求する内容が盛り込まれています。

――会長はどなたですか

グランドパレス川端の代表取締役である斎藤浩英さんです。

大曲で美味しいものは

☆

――具体的にはどんな活動を

まず大曲の食の豊かさを内外に発信しようと、『大曲の納豆汁』の普及に取り組みました。

県外の人に「大曲の美味しいもの」と聞かれると大概の大曲人は、「特別自慢できるような美味しいものはない」と答えます。しかし実際は、一般に食材は他地域の同じ品種とは一線を画すレベルの高さ、しか

大曲に所縁（ゆかり）のある人みんなの会

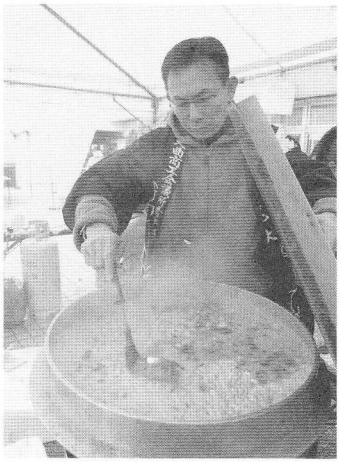
首都圏大曲会　会員募集中！

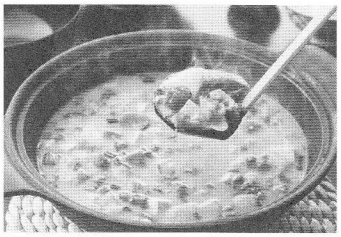
年会費：1家族千円（会報代・通信費など）です。

☆ご質問・入会お問い合わせ先

〒102-0061 東京都千代田区九段北1-1-71-304
教育情報プロジェクト気付
電話 03-5213-2028（代表）　FAX 03-5213-2029
eメール：info@e-prosjp.com

「平成鍋合戦」でグランプリ獲得


納豆の味と香りが…


グランプリを獲得した「大曲の納豆汁」

斎藤浩英青年部部長

も安価ということに気づいていない人が多いのです。そこでこの辺りでは一般的な家庭料理の納豆汁を例にとり、安くて美味しいその価値を再認識し、郷土に自信を持つことに挑戦しました。

現在は昭和期の後半、カネトクで販売し、子どもたちに人気のあった「カレーウーメン」を復活させ、大曲の味として内外の出店に努めています。

――他にはどんな試みがありますか

秋田県『食』のネットワーク協議会を立ち上げました。これまで青年部では、県内外への出店、アピール販売などを続けてきていますが、お決まりのように予算不足、行政の支援も思うようにいかないことから苦労も多くなっています。そんなことから横の連携を強化しようと、似たような活動を展開する「横手焼きそば」「神代カレー」などを始め、当地グルメに取り組む12団体が一緒になり、今年四月、「秋田県『食』ネットワーク協議会」を設立しました。六月には横手ふるさと村で大イベントを開催するなど、活動は開始されています。

グランプリのカップ、賞状などを手に喜ぶメンバー

納豆汁のブースの前には長蛇の列

また二〇〇八年の大仙市秋まつりでは県内の各青年部に働きかけ『秋田旨めもの屋台村』というイベントを開催し、昨年からは納豆に特化させ、『納豆まつり』を開催しました。今年は『全国納豆サミット』として、各地から納豆に関する業者・関係者が集まり、更にパワーアップされることになっています。

――若者らしいエネルギーを感じます。大曲の花火に向けた企画はありますか

青年部の一番大きな事業は『大曲の花火』の桟敷会場運営です。桟敷会場の設置・運営と、当日の入退場ゲートの管理を受け持ちます。年々増加するお客様に対応するためには、前日夜からほとんど休息なしで当日の深夜まで走り回る戦場のような状況が続きます。折角全国からお見えになるお客様、少しでも大曲の町に好印象を持ってもらおうと、昨年からは花火通り商店街との協働で、『土屋館音楽祭』や『日本酒試飲会』、『地場グルメの販売』などを行いました。

また花火のプログラムは多種ありますが、市内マップはない状態でしたから、みんなで資金を出し合って当日マップの作成もしました。今年は花火一〇〇年ということもあり、青年部・JC、町の若い衆（梵天を終えた年代会）、ボランティア団体にも協力してもらい、独自に『前々夜祭・前夜祭・当日祭り』と、三日間通しの街中歓迎イベントを計画しています。

通りを元気にする仕掛け

☆

――『土屋館衆』を立ち上げたとか

大曲駅から続く「花火通り商店街」は、最盛期の姿とは一変し、典型的な駅前商店街になっています。各店主の高齢化現象も進んでいます。そこで青年部と商店街など、様々な団体と協力し、横連携の会『土屋館衆』を立ち上げ、様々な活動をスタートさせました。昨年五月から毎月第四土曜日、駅前の中心地で『土屋館わいわい広場』を開催しています。回を重ねて出店者、団体、参加者が増えて、昨今は教育委員会、小学校、社会福祉協議会なども加わって、益々賑やかになっています。

――ところで天童市で行われた「平成鍋合戦」では、「大曲の納豆汁」で見事グランプリを獲得しましたね。

元々この催しは、天童市商工会議所青年部が十四年前、町おこしの自主事業として始めたものでした。青年部同士のつながりから天童市の会

國學院大學
大友律子
（首都圏大曲会副会長　内小友出身）
〒145-0061　東京都大田区石川町２－33－１－406
Tel／Fax：03－3728－0280
eメール：zwu00100@nifty.com

長さんに、ぜひ「大曲の納豆汁」もと頼み込んで参加させていただいたものでした。普段食べている家庭料理の納豆汁が、コンクールで評価されるわけがないと、青年部の親会である大曲商工会議所も当初は首を傾げたものでしたが、同志メンバー二十名が自腹で参加しました。腕試しが目的でしたから、まさか初出場・初優勝とは思ってもいませんでした。

本物の美味しさは家庭の味の中にある

――そのときの会場の雰囲気や反応は如何でしたか

山形県でも天童市辺りまで納豆汁は普及していますが、南部では食べません。従って天童市界隈では一般的な家庭料理というわけです。しかもあくまでも「汁」であり、「鍋」ではなかったのです。

――不利なスタート？

スタート時点では、昨年までの好成績チームには長蛇の列が出来るのですが、我々のブースは閑散としたもの。しかし並ばずに食べられるということから段々に販売数も増え、やがて「美味しい」という声がクチコミとなって、一時間もすると百名以上もの長蛇の列が出来てしまったのです。最終的には僅か二時間で八百杯を販売しました。作り置きをしていなかったため、この時間中はまるで戦場のような忙しさでした。

――それが優勝に繋がったと…

審査の後、『大曲の納豆汁』の優勝が告げられると、主催者である天童商工会議所青年部のみなさん、そして会場の参加者たちみんなが、あっけにとられていました。自分たちも普段の家庭料理として食している納豆汁が、まさか第十四代の鍋将軍になるとは想像もしていなかったと思います。そして合戦終了後、主催者の方々と次のような話をし、総括しました。

優勝を狙いたい参加者は、回を重ねて高級な食材、目新しい調理、派手な装飾に目を取られてきました。鍋料理という食材が本来持っている家庭的な素朴さ、温かさを忘れかけていたのではないか。一般的な家庭料理が一位になったと言うことは、審査員、そして一般の参加者が美味しいものをしっかり評価できる確かな舌と、明確かつ公正な審査基準を持ち、このコンクールが適正に運営されている証拠。昨今の消費者が求めるものは、奇をてらったものよりも家庭の味であることがわかります。

――家庭の味こそ求めるところということですね

私たちが納豆汁を選んだ理由は、秋田県の地元で日常的に食する、我々にとって普通の食事レベルが如何に高いかということを、県民自身が再認識し、誇りに思ってもらおうという理由からでした。どうも秋田県民は、自分たちの食文化や食しているものの価値を低く見積もる傾向があります。この土地には、都会の人に自慢できるような美味しいものがないという意識が強いように思います。しかし決してそんなことはありません。「平成鍋合戦」での優勝が、見事にそのことを裏付けました。東京や首都圏での反応はどうでしょうか。適切なマーケティングとオペレーションが大事です。

横浜・八景島で「こでられね～秋田大集合」

――横浜の八景島でも開催しましたね

横手市観光課と観光協会の『出張かまくら』という観光事業施策で、私たち青年部の納豆汁にも声がかかったものです。大曲からは納豆汁のほかに、イブリガッコ、大保納豆、三杯もちを持参しました。また現地で特別にアキタコマチをガス炊飯して「味噌おにぎり」を作って販売したところ、これが大好評。最初戸惑っていた納豆汁も、二日目からは小さなカップの試食が飛ぶようにはけました。

世界一素晴らしい町に

――最後に青年部今後の抱負を

大曲の花火以外の観光の切り口を作り出していきたいと思います。年一回の開催であり、市内宿泊・購買のキャパを遥かに超える数のお客様に、地元の経済効果としては非常に効率の悪いものです。未来を担う子ども達のためにも、経済効果だけを求めるのではなく、この町が「世界で一番素晴らしい町」と生涯言い続けられるような町に向け、努力を重ねたいと思います。『六分の侠気、四分の熱』を持った若者たちを集め、育てて、「若気の至りでゴメンナサイ！」という、ある意味この年代の特権をフルに活用して、新しい事へ果敢に取り組んでいきたい。

愛郷無限！「金は無いけど志と熱、そして体力はある」を誇りに、これからも積極的に活動を続けようと話し合っています。

伝統の銘酒
刈穂
秋田の心を醸す
大地の恵みとともに
雪蔵銘醸
出羽鶴
秋田清酒株式会社
お陸様で出羽鶴蔵は二年連続全国新酒鑑評会で金賞受賞いたしました。
秋田県大仙市戸地谷字天ケ沢八三の一
TEL 0187(63)1224
FAX 0187(66)2277
http://www.igeta.jp/
e-mail info@igeta.jp
・お酒は二十歳になってから。お酒はおいしく適量を。
・妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

記念品・贈答品などへのネーム挿入ご用命承ります
高橋ネーム店
社長　高橋　博子
〒014-0015大仙市大曲白金町12-24
電話　0187-62-1648
大曲の花火100年 2010 100周年
（大曲の花火100年　記念タオルから）

首都圏大曲

会員のひろば

半夏生の白さ

朱華

散りぬるを桜の気持ち知りもせず
ひなまつり何時になっても女の子
雨見つめ小さきままの青蛙
空青く半夏生の白さかな
夏集う友と故郷懐かしむ
花火観る周りの人の幼な顔
留守電に母の声して冬リンゴ

朱華は首都圏大曲会福会長大友律子さん。大仙市内小友出身で、現在國學院大學職員。毎月第四水曜日、同大學辰巳正明教授の研究室で句会を開催しています。同句会の句集「亜洲風味的糖果盒Ⅵ（アジアンスイーツバスケット）」から転載しました。

ふるさと便り

作詞　黒皮羽生

お～い　元気で　やってるのかい
里にも　雪解け　春が来た
ばっきゃに　ひろっこ　猫柳
ちょろちょろ芽っこを　出してるよ
お前と遊んだ　川原の土手も
高速道路に　なっちゃった

そ～だ　ふるさと　重大ニュース
小百合は　町会の
ぴかぴか　新米議員さんに
これまた　春夫に孫ができ
若～い爺様に　なっちゃった
コンビニ　ファミレス　みなあるよ

ど～だ　たまには顔でもみせろ
俺たち学んだ　学校も
いよいよ廃校　決まったよ
ドタバタ走って　叱られた
木造校舎の　さよなら会を
お盆にやるから　待ってるよ

「ふるさと便り」を作詞した黒皮羽生は、首都圏大曲会幹事佐藤重光さんのペンネーム。東京水産工業株式会社を設立し現在は同社会長。趣味で作詞活動を始めた腕前は、今では全日本音楽著作家協会会員。意欲的に作詞活動を続けています。

ふるさと思えば

作詞　江戸　さちこ

奥羽山脈　頂に
朝日が昇る　青い空
緑広がる　水田に
命の息吹　ふつふつと
蛙の泣き声　懐かしく
あー　春惜しむ　我が心

真昼の山よ　寂しかろ
人影途絶え　幾年か
鳥の鳴き声　もの悲し
変わらぬ山よ　この川よ
昔の草花　ひっそりと
あー　故郷よ　この胸に

大平山に　日が沈む
ねぐらを求め　急ぐ鳥
空に三日月　ぼんやりと
わびしく照らす　街路灯
川面に思いを　浮かばせて
あー　去り難き　この心

「ふるさと思えば」を作詞した江戸さちこは首都圏大曲会会員今井幸子さんのペンネーム。最近はハードロックのドラムに挑戦していましたが、作詞にも手を伸ばすなど、日々前向きの生活を楽しんでいます。「ふるさと思えば」は、国道一〇五号線あたりから見たふるさと高関界隈の風景を、懐かしく詠んだものでしょうか。

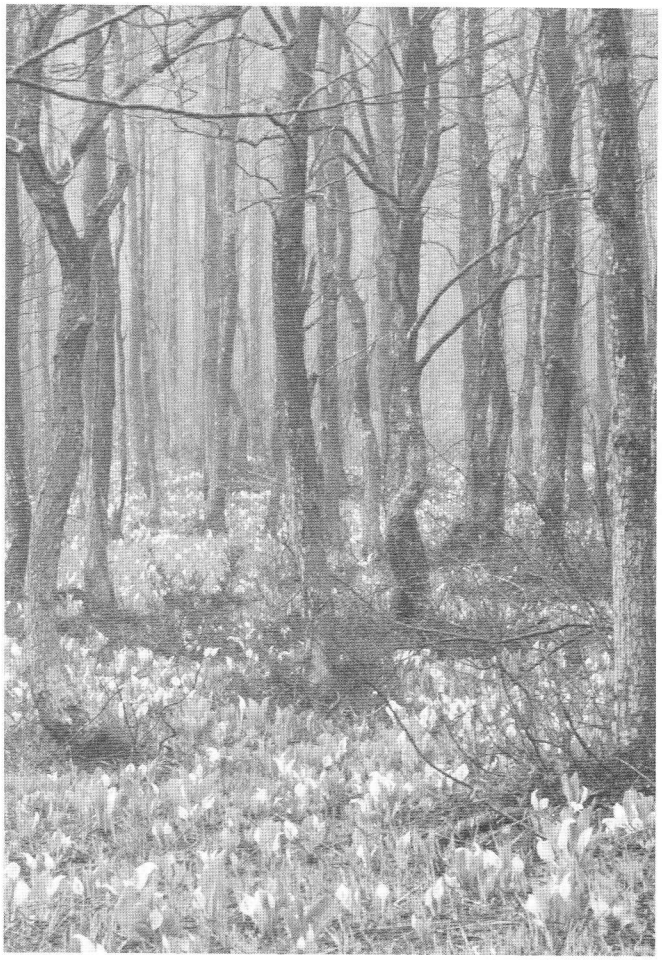
◇◇◇編集後記◇◇◇

『ふるさと大曲』第9号がお手元に届く頃は、梅雨も明け、入道雲わがもの顔の夏真っ盛り。ふるさとの大曲は、花火一〇〇年の大イベントを控え、市民の話題は花火で盛り上っていることでしょう。▼大仙市が誕生して五年。商工会議所青年部の活躍など、まさに夢のある田園交流都市実現に向け着実な歩みを感じます。▼「東京で大曲の花火を観る会」は、大曲を尋ねたことのない人も参加して大盛況。カラオケも好評で、来年もやろうとの声がかかる賑やかで活気ある会でした。▼六月十二日、アルカディア市ヶ谷で大仙市ふるさと会懇話会が開催されました。各ふるさと会ともに、会員の高齢化を嘆く声が聞かれました。しかしふるさとを懐かしく思うことは、自らの若い日を改めて感じることでもあり、年齢を重ねた人が多くなるのは当然。だからこそ各ふるさと会存続の意義があると思いました。（大釜）

『ふるさと大曲』第9号　平成22年７月24日
首都圏大曲会平成22年度総会記念号
編集人：首都圏大曲会　発行人：大釜茂璋
〒102-0073　東京都千代田区九段北１－１－７－３０４
教育情報プロジェクト気付
電話：０３－５２１３－２０２８　Fax：０３－５２１３－２０２９
e-メール：info@e-prosjp.com　http：//www.supportlife.info
表紙撮影:藤田征一　印刷・製本:秋田協同印刷株式会社

カメラ紀行

斉藤貞助
(首都圏大曲会会員)

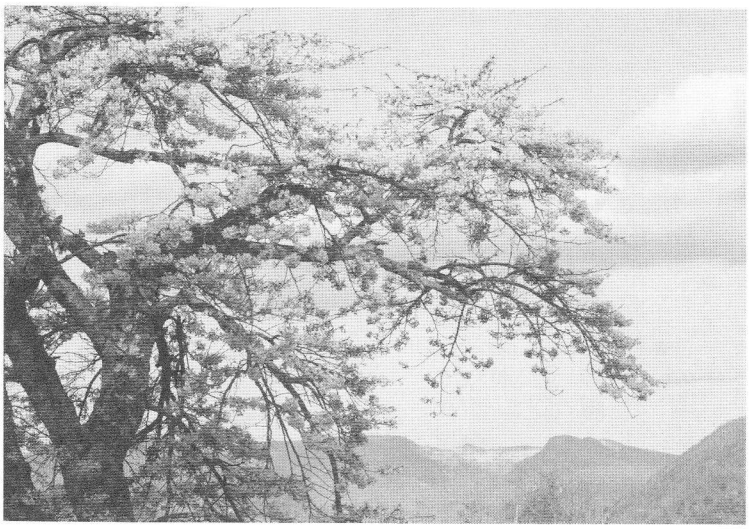


水芭蕉　群生林

— 早朝・霧の中 —

毘沙門沼に映る磐梯山

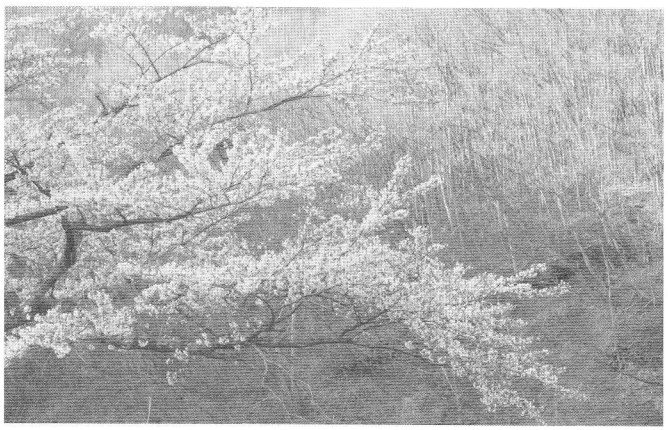
ゴールデンウィークの混雑を避けて、連休明けの裏磐梯を訪ねた斎藤貞助さん(首都圏大曲会事務局長)。吾妻連峰の峰々には残雪が光り、芽吹きだした木々の中でひときわ目立つのは満開の桜。コバルトブルーに輝く五色沼の彩りも鮮やかで、東京とは一月遅れの春満開の旅でした。



山上に爛漫の桜

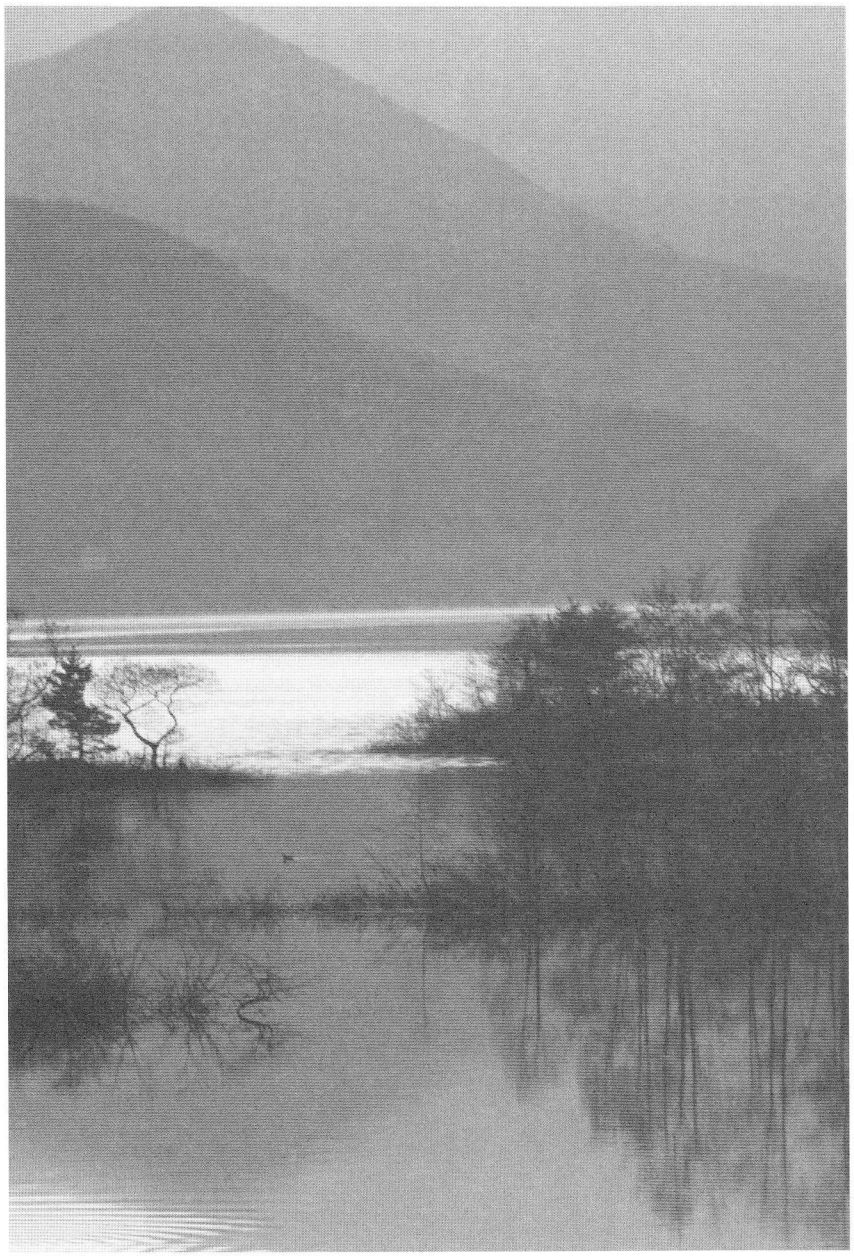
— 桧原湖近くの峠 —

ひっそりと艶やかに匂い立つ。
訪れる人の感性を揺さぶるがごとく見事な桜が咲いていた

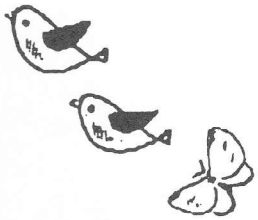


絢爛の美を誇る

— 桧原湖に越える山間で —



秋元湖の夜明け



朝霧に包まれた湖の朝は音もなく訪れる。静かな湖水に水鳥が浮かんで、霧が晴れると見事なコバルトブルーの湖面が顔を覗かせる。秋元湖は長瀬川として流れ出し猪苗代湖へと注ぐ。

花見峠の山桜

花見峠を越えて行くと、小粒ながらも咲き誇るヤマザクラの樹林が目の前に広がっていた。うっすらと春霞だよう中、小鳥の鳴き声が長閑だった

夏瀬温泉
都わすれ

秋田・田沢湖・抱返り渓谷県立自然公園

田沢湖と角館の中ほど。紺碧の湖や渓流を見ながら木立の道を進みます。広い敷地と周囲の山々に包まれた「都わすれ」は客室わずか8室。全室抱返り渓谷の景観を見ながらのかけ流し露天風呂付きという、人里離れた理想のくつろぎの宿です。

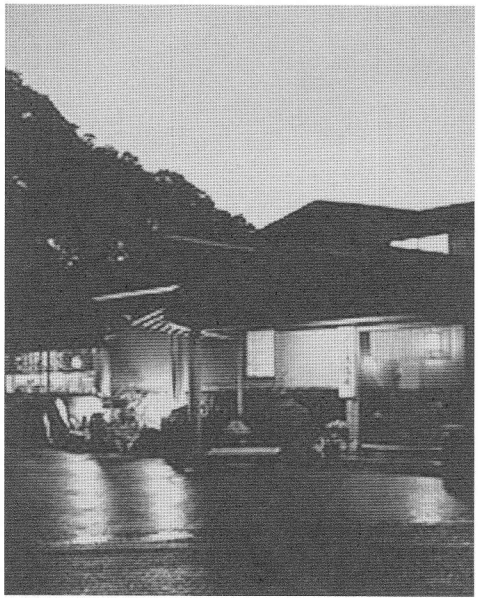
秋田県仙北市田沢湖卒田字夏瀬84
TEL　0187－44－2220

輝く湖面、美しい芝と森に囲まれたロケーション
ドラマ【IRIS(アイリス)】の撮影地
イ・ビョンホン滞在、話題のホテル

秋田・十和田湖・八幡平国立公園

ここ乳頭温泉郷は、七湯の素晴らしい泉質の宿が点在しています。中でも妙乃湯は関西から見た東の「金泉・銀泉」の二源泉を併せ持った誇れる宿です。また小じんまりした秘湯の素朴さ、古さに新しさのバランスを加味した趣のある宿として大変喜ばれております。

秋田県仙北市田沢湖生保内
字駒ヶ岳2-1
TEL　0187－46－2740



乳頭温泉郷　金の湯　銀の湯
妙乃湯温泉

エステ&カフェ
田沢湖ホテル
イスキア
ISCHIA

2008年3月1日OPEN!
秋田県仙北市田沢湖田沢字潟前72
TEL0187-43-2005　URL　http://ischia-hotel.jp　info@ischia-hotel.jp